

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インドネシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2017年度のインドネシア CIS(カップリング インターンシップ)が、インドネシアで8月20日—9月2日の期間に開催されました。大阪大学の外国語学部2名と工学研究科2名、インドネシア大の人文学部2名と工学部2名の計8名の学生が参加しました。

現地では2日間の事前研修をインドネシア大(デポック)で行い、日本企業の経営理念やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育(VTR)、CIS 実習テーマの検討などを行いました(指導:言語文化研究科の原准教授、佐藤特任助教)。23日からの休日を除く5日間は、セランにあるチレゴン・ファブリーケーターズ(PTCF)社(発電用ボイラの製造メーカー、IHIの子会社)で企業実習を実施しました。実習としては、会社説明(組織、業務内容)、溶接講習、品質管理・工程管理などの説明を受けると共に、工場見学(ボイラ・プラントの製造)や、PTCFの経営者

や現場スタッフとの面談を行いました。又、8月29日には、PT.IHI Gasification Indonesia(カラワン)のガス化炉も見学しました。学生は、実習テーマの「人材育成の課題と対策」に関して、連日協議を重ねて、真剣に取り組みました。

最終日の8月31日にはインドネシア大で、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、インドネシア大学のMelda 部長(International Office)、Winarto 教授、PT.CFの永吉社長、田淵部長、大阪大学の菅客員教授、原准教授、佐藤特任助教ら計25名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。企業や大学からは学生らに対して貴重なアドバイスを多くありました。

学生は、「ものづくり現場」を体験すると共に、実習テーマを通してコミュニケーションや異文化理解の重要性などを会得しており、大変価値ある活動でした。

